

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携の在り方を探る

I 主題設定の理由

臨地研修による地域素材の共有、授業参観、情報交換などを通し、同地域の子供の教育に携わる小中の教職員が、児童生徒について共通理解を図り、系統的によりよい指導を行えるよう本主題を設定した。

II 研究の内容

《第1回》臨地研修

8月6日(水) 13:30～ 会場：龍石山 永昌院

- ・住職の説明による臨地研修

《第2回》学習会

11月14日(水) 15:30～ 会場：日川小学校

- ・豊かな学力の確かな育成
「家庭学習力をはぐくむ手立て」
- ・講師 早稲田大学大学院教授 田中博之 先生

《第3回》授業参観・交流会

1月23日(水) 14:00～ 会場：加納岩小学校

- ・ICT機器を活用した授業の参観
- ・授業で使った機器の紹介を兼ねた交流会

III 成果と課題

1 成果

- ・1回目の臨地研修は、山梨小学区にある龍石山永昌院の見学であった。境内には史蹟である信昌の墓があるほか、県指定の文化財「木造十一面観音菩薩立像」等、多数の文化財があった。「先生方になら・・・」と貴重な文化財をたくさん開示していただき、地域に関わる見識を深めるのにとっても有意義であった。
- ・2回目は、日川小学校の学力向上パイロットスクール事業に関わっての学習会で、講師の田中博之先生に「家庭学習力を育む手立て」についてお話を伺った。豊かな心を

育てる家庭教育のため、「心の居場所を作る」など10原則50のメソッドが考えられることなどを紹介していただいた。また、家庭学習力と教科学力の関連をデータを基に説明していただき、授業改善につながった家庭学習への取り組みなどを学ぶことができた。

- ・3回目は、加納岩小で授業公開及び交流会を行った。加納岩小で取り組んでいる「思考・表現力を育む」ための授業について、ICT機器の活用を中心にたくさんの授業を公開していただき、小学校の教員にとっても中学校の教員にとっても他校の様子を知ることができるとても貴重な機会であった。また、交流会では授業に使用されたiPad, d-bookなど様々な機器に触れ、実際に体験することができ、とても参考になった。
- ・3回のブロック交流を通し、地域素材を共有し、学力について学び、一つの学校の取り組みを互いに知ることができた。

2 課題

- ・授業公開の時期が、インフルエンザの流行期と重なってしまい、会場校や参加者にもいろいろな負担をかけることになってしまった。実施時期については、来年度検討の必要がある。
- ・英語の授業や総合的な学習等、小中の情報交換を通して連携していく必要がある。
- ・小中連携という点から有効な取り組みとして、毎年、中学1年生の授業を参観し、2月のブロック交流研究会には3小学校の6年生の授業参観を行い、意見交換・情報交換をするのもよいのではないか。

3 研究方法の工夫について

- ・内容的には、普段行くことのないところを見学したり、同地域の他校の授業の様子を見学して情報を共有したり、講演会で学習を深めたりと、様々な方法で交流ができてとても有意義だった。
- ・講演会は、今大きな課題となっている「学力」についての内容で、タイムリーな話題であった。
- ・交流会は、加納岩小の職員や教材会社の方などの説明を聞きながら、様々な情報機器を実際に体験するという新しい形で、興味をもって参加する職員が多かった。

(ブロック長 中村 悦美)